

専用おむつ加工「任せて」

障害者らの就労支援事業所「ユースエイド」(三島市)が、自動排せつ処理装置に使う専用紙おむつの加工・販売に取り組んでいる。寝たきりの要介護者らが使う処理装置は福祉現場での活用推進が期待される。同事業所の高橋達也理事(46)は「在宅介護の負担が減るよう、紙おむつの加工を通じて装置の普及に貢献したい」と力を込める。

三島の就労支援事業所

加工は市販の紙おむつに穴を開け、専用の布をアイロンで丹念に縫合していく根気が要る作業。アイロンをあて過ぎると接触部が熱で溶けてし

排せつ処理装置普及へ一役



まっため、細心の注意が必要となる。ユースエイドでは現在10人の知的障害者らが働き、仕事をこなしている。加工作業をきっかけに昨年11月の開所以来、3人が一般企業への就職



④丁寧に専用紙おむつの加工を進めるユースエイド利用者。処理装置普及の一翼を担う。21日、三島市のユースエイド
⑤在宅介護の負担軽減へ期待がかかる自動排せつ処理装置(スマイル介護機器販売提供)

障害者ら 技術身に付け

Q 自動排せつ処理装置 紙おむつと密着したカップから送られる排せつ物をセンサーで感知し、吸引・処理する。温風や温水でおむつの乾燥状態を保つため、おむつの交換は1日1回で済み、臭いの発生も抑えた。福祉用具の利用推進に取り組む公益財団法人「テクノエイド協会」(東京都)によると、全国的にまだまだ普及していないのが現状という。

を果した。高橋理事は「大変難しい作業にもかかわらず、期待に応えて一般企業でも通用する技術を身に付けてくれた。一般就労への足掛かりにしていきたい」と期待を込める。専用紙おむつの納入先は、処理装置を医療機関や一般家庭にレンタル・販売する「スマイル介護機器販売」(東京都)。紙おむつ加工は現在、ユースエイドが一手に引き受けている。同社の石立大和営業企画部長は「事業所の皆さんの丁寧な仕事には厚い信頼を置いている。処理装置はまだ認知度不足だが普及を進め、在宅福祉の負担軽減のために静岡の皆さんにも活用してもらいたい」と話している。問い合わせは同社へ電03(3454)7351へ。